

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300051		
法人名	株式会社 おいでの里		
事業所名	スローシティピアノ	ユニット名	ソナタ
所在地	宮崎県延岡市平原町1丁目854-1		
自己評価作成日	令和4年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和5年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

感染症対策としては、医療と連携し新型コロナ感染症の防止対策を行ってきた。従事者の感染防止対策に対する意識の高さと努力により現在も新型コロナ感染者は「ゼロ」を継続中である。また感染の拡大や県外の感染状況に注意し、各種ボランティアや利用者様のご家族との面会を制限する事となった。利用者様の健康管理面に加え、精神的な面でも留意し、施設内での行事やレクリエーション活動を行っている。また栄養面の管理として配食サービスを利用し塩分、カロリーの管理を行ってきた。各週で計画している行事食や手作りおやつに関しては、利用者様はいつも楽しみにされ喜ばれている。それによって職員との会話も増えるきっかけになっていることから、大切な一つのコミュニケーションの一環だと考えている。今後も感染予防対策を怠ることなく、健康面、精神面を含め、これまで同様に寄り添い、利用者様にとってゆっくり・癒しの時間となれるようにしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は「スローシティピアノ」という事業所名の由来に基づいて、ホームでの生活がゆったりとした癒しの空間になるよう取り組んでいる。ホームは住宅地の中にあり、近隣の幼稚園児や商店との関係づくりやボランティアの受け入れも積極的に行っている。コロナ禍による行動自粛の中であっても中庭での茶話会や、入居者の気分転換を図ったりドライブスルーを利用して食事の楽しみを味わっている。日々の暮らしの中で看取りという最期の時まで入居者や家族の思いにできるだけ沿いたいという思いがうかがえる。コロナ禍による慌ただしい勤務状況下で職員間でお互いに支え合いながら入居者の穏やかな生活を支援しようと努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念に基づき、利用者の尊厳を尊重し、また相互信頼のもとでの介護支援が出来る様、各ユニットにて個人理念を検討し、いつでも皆で共有できるように施設内に掲示している。	法人の基本理念を基に毎年職員間で意見を出し合いホームの理念を作成し掲げている。話し合いの場を設けることで職員には理念に基づいた支援が行えるよう意識づけができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店や専門店を活用し、食材や物品、必要物の購入をしている。現在はコロナの為交流等が難しくなっている面もあるが、以前行っていた地域の保育園園児訪問、ボランティア訪問、祭等も今後予定したいと考えている。	近所の幼稚園児が定期的に訪問している。コロナ禍により訪問ができない時も窓越しに顔を合わせ、園児からの手作りのプレゼントをもらうなど交流が図られている。また近隣の鮮魚店や米屋から食材を仕入れることで地域とのつながりが保てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本来であれば、市内の中、高、大学生の職場体験・実習等の受け入れを行っている。また、地域高齢者の見守りや相談を受け、市や包括支援センターへとつながられる様に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は5月の推進委員会を感染拡大の為中止したが、他については2ヶ月に1回開催した。市役所、包括支援センター、地区代表、家族に参加して頂き、利用者の状況報告、活動報告、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議への家族の参加者は固定せず、多くの方に参加してもらえるよう声掛けを行っている。入居者の健康に関する意見が多く出されており、意見に沿った支援が行えるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本年度も新型コロナウイルス感染症予防や防止対策について研修や会議が行われない場合には、文章やメールにて情報提供があり、施設内に掲示し、閲覧や研修を行い確認した。	市や県からはマスクや検査キットの提供があった。コロナ禍により人員確保の困難な状況が見られた場合など、市へ意見を求めることができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回、身体拘束についての勉強会を行い、意識を高めている。日頃から行っているケアの中で問題点は無いかの振り返りを行う事で、身体拘束をしないケアを行うよう取り組んでいる。新人職員には入社時に研修を行っている。	年に2回の研修を行っている。研修の資料や議事録は整備を行い閲覧できるようにしている。入居者への言葉遣いについて職員間で注意し合い、必要な時は入居者の傍を離れて一息つけるようアドバイスを行ったりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修会が行われ、意識を高める事が出来た。研修には2名参加したが、研修資料を基に横展開し、全員で共有し、虐待をしない、させない、見逃さない事業所の継続に努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は以前権利擁護に関する研修に参加し、その制度を理解している。現在、後見人制度を利用になられている利用者がいないが、今後相談があれば制度が活用できるように支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、重要事項の締結に関しては、ご家族の納得がいくまで説明を行い、理解・納得が出来た後に締結を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会を2ヶ月に1回開催しているが、その際にご家族に参加を依頼し意見をや要望を言える場を設けている。また面会時は、相談や話し合いが出来るように時間を設けている。	居室のレイアウトについて入居者本人の希望と安全面確保の側面から調整を図るため、家族を交えて話し合いを行った事例がある。家族へはできるだけ本音で語ってもらえるよう意識しながら言葉かけを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している定例会、リーダー会等で、代表者は職員から直接意見や提案を聞くことが出来、運営に反映させている。希望により、個人面談を行う事により意見を聞く事も出来る。	職員から意見が上がり、入居者の状況を考えながら勤務時間を変更した。管理者は日常業務の中で表情や行動を確認し、気になった職員については個別で面談を行い話を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個人評価表と管理者からの勤務状況や報告書などを基に個人面談を行い評価を行っている。今後は、職員が出した結果を重視し、やりがいや、向上心を持てるように、フィンプレー賞等も作っていきたいと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度も感染拡大により研修等は少なくなっていたが、職員は休日を利用し、資格取得の研修や勉強会に積極的に参加し、代表者も制度の利用を促進し後押ししていた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は感染拡大により直接の見学は出来なかったが、同業者との電話やメール等で活動状況報告や相談等が出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃から利用者とのコミュニケーションを大切に、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、信頼関係を築き安心して生活できる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時の家族とのコミュニケーションを大切にしている。家族の不安、要望に耳を傾けながら職員が気付いた事など、意見交換を行うことで信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前から、家族や紹介の事業所との連絡や話し合いの場を設け、本人や家族が求めている支援方法を見極める様に心掛けている。また、医療との連携によってスムーズな支援が出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事は行っていただき、共感し信頼し役割りを持っていただく事で、共に支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の状況報告はもちろんの事、当施設での行事等を通して利用者との絆が深まるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本年度は感染症拡大の為、面会や外出、ボランティアやその他レクリエーション等にも自粛してきた為、なかなか馴染みの関係は少なかった。今後は、馴染みの関係が途切れない様に支援していきたい。	コロナ禍による面会等の自粛前は歌や踊り、オルゴール演奏など、多くのボランティアが訪問していた。訪問理容が定期的に入り、入居者とは馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションを大切にしており、席順や配置に気を配り問題なく関わり合いが持てるように努めている。また食事は特別な事情がない限り全員食堂で出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば支援していくよう努力している。また現在は面会制限があるので、入院時には相談や施設で出来る支援を行うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりとコミュニケーションをとり利用者本位の支援が出来る様に全職員が情報を把握し共有が出来るように努めている。	入居者本人に希望を聞いたり、家族からの情報収集を行い生活支援に活かしている。着替えの際は服の希望について、朝や前夜に入居者本人に尋ねるなど一人ひとりの思いを尊重できる機会が持てるよう工夫されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を元に、利用者のこれまでの生活の仕方、馴染みの物等を活用し、これからの生活が今までと大差なく出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子観察・バイタルチェック・介護記録・朝礼や申し送り等で職員全員で状況を把握し、また申し送りノートを作成し共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、各関係機関、介護、医療などを含め意見を出し合い、その意見を基に現状に即した介護計画書を作成し家族にモニタリングを行っている。	ユニットの計画作成担当者が入居者や家族、職員から聞き取りを行いモニタリングやケアプランに活かしている。日々の記録の中から入居者の表情や言葉などを抜粋し、思いをくみ取ってケアプランに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの一日の様子を記録して職員間での情報の共有を介護記録にて行っている。また気づきに関しても記載し実践に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況や要望に応じて、医療機関や同法人との連携を図り、柔軟な支援が行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療連携により安全安心の生活が保たれている。また協力医療機関の対応も要請し安心できる生活ができる様に支援している。ボランティアや他者との繋がりにおける支援は自粛であったが今後はその様な地域資源も活用したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力機関をかかりつけ医とし、定期的な訪問診療があり、適切な医療が受けられるよう支援している。	ホーム入居時に母体である医療機関に主治医を変更してもらっている。訪問診療に加え24時間体制での連携が図れており、入居者や家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で連絡ができる体制をつくっており、介護職が日常の管理を行い、状況の変化を管理者・看護師に報告し協力医からの指示を受け、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、入院先の医師、看護師に医療や施設より情報提供書を提出している。入院中は施設で出来る事の支援を行い、退院時はカンファレンスに出席し退院の準備受け入れの支援も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や利用者の状況の変化に伴い、看取りに関する説明をし、利用者や家族の意向に沿って医療機関と連携を図り、看取りが安心して出来る様に支援している。	入居者や家族の意向によっては看取りも行っている。医療機関と24時間体制での連携が図られており、最期までホームで過ごしたいという希望に沿うことができている。看取り期は職員が全員で見送り、実践を通しての経験が積めるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に職員はどのような行動を取るべきかを医療側からの指示にて行える様にしている。また、緊急時の連絡先等全員が把握できるように明確にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本年度は感染拡大防止の為に、実際に屋外で避難誘導を行ったり出来ない状況であったが、火災訓練、通報訓練に加え、避難場所、避難経路などの再確認を行った。	ホームは住宅地の中にあり、避難訓練は近隣住民にも声掛けを行って、業者立ち合いのもと実施していた。コロナ禍が落ち着いたら再度近隣住民を含めた実施ができるよう予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族からの情報で本人の性格等を知り、日々の生活の中で得た情報によりその人に合った言葉かけや対応が出来るように努めている。トイレの閉塞感を嫌がる利用者に対し、カーテンで仕切りプライバシーの確保に努めている。	排便チェック時などプライバシーに配慮した話し方を意識している。排泄時見守りが必要な入居者のために目隠し用のカーテンを設置した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向や希望が言える環境作りを行っている。信頼関係を築くために利用者とのコミュニケーションを取り、共感の姿勢を大切にしている。自己決定が困難な場合は決定項目を減らす等考え自信を持ってもらえる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、その日の希望に沿って支援出来る様に常に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服に関しては、本人の意思を確認しながら選択して頂いている。また、月の活動予定の中にお洒落の日を設け、化粧やマニキュアを塗ったりと楽しませている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器や盛り付けに工夫をし視覚から喜びが得られるよう努めている。また手作りおやつや旬の食材を取り入れ食事が楽しみとなるように支援している。医療からの制限や特食を考慮した食事内容もある為工夫が必要である。	中庭にはプランターがあり、職員と入居者が一緒に花や野菜を育てている。収穫した野菜を食事に使用したり、ドライブスルーで買い物をしてホームで食すなど食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は随時記録に記載を行っている。嚥下困難な方には、ミキサー食やトロミを使用し、その人に合った対応をし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。準備や声掛けを行い、出来る部分を本人にしてみもらい出来ない部分を職員が援助している。必要に応じて義歯洗浄剤を使用し洗浄・消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録や排泄の状態観察から情報を把握し本人の排泄パターン・仕草や表情からその人に合った排泄を行えるよう支援し可能な限りトイレでの排泄が出来るようにしている。	体調の低下によりおむつ使用になった入居者へ身体状況を観察しながら支援を行い、リハビリパンツへ移行することができた。日中はできるだけトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫やヨーグルト等で腸に良い物を提供したり、便秘の原因である運動不足や水分不足を改善し、排泄状況の観察をし指示の下剤を使用し調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴できるようにしており、生活習慣や本人の体調に沿って入浴して頂く。職員と会話を楽しみながら入浴され、「お風呂に入ってよかった」「気持ちよかった」と思われるように支援している。	医療機関が休診の日曜日を除いて毎日お風呂を沸かしている。入居者全員が1週間に最低2回は入浴できるよう支援している。希望があれば毎日入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転に注意し、日中は出来るだけ活動ができる様に支援している。日中に休息を希望される方には、誘導し希望に沿える様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療との連携により、利用者の疾患や状況の把握が出来る様に努力している。また、服薬の変更等があった場合は処方箋を提示し、申し送りにて周知徹底を行っている。症状に変化があった場合はすぐに医療との連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸が好きな方や、縫物が好きな方等、それが出来るように準備し支援している。また洗濯物たたみ、台拭き、居室を職員と一緒に片付ける等、一緒に行えることを大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染拡大の為、今年度は外出する機会が少なかった。必要な外出支援は家族の協力のもと行えた。屋外に出られない分、施設内の中庭などで茶話会を楽しんだり、普段とは少し違うと言う気分転換の場を設けた。	家族からの要望で外泊を行ったり、近くの小学校へ花見に出かけるなど、外出の機会を設けている。実施できない状況下にあっては中庭で茶話会や花見を行い、気分転換が図れる工夫を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	感染拡大の為、買い物支援は出来なかった。状況に応じて今後は買い物支援など行っていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会など出来ない時期が多かった為、出来るだけ家族と話が出来る様に電話をしたり、携帯電話を持っている利用者には自身で掛けられるように支援をしてきた。また、年賀状、暑中お見舞いを作成し家族、親戚に送れる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は木造平屋で住宅街にあり、日当たりよく、居室からは山や木、草花が見え、季節を感じる事が出来る空間となっている。トイレや各個人の居室にはご家族の承諾を得て表示をしてあり、迷いなく毎日が過ごせるように支援している。	リビングや通路が広く、整理整頓がされており開放感が持てる環境が作られている。壁飾りが圧迫感の無いレイアウトで飾られおり、清潔感があって、居心地の良い空間づくりができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には馴染みの品々や、希望させる方には、家族との写真、施設で撮った行事等の写真が貼っており、気の合う利用者と話がしやすい環境となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個室でベットとエアコンのみの設置でそれ以外は個人持ち込みが出来るように、馴染みの生活が出来るようになっている。	安全面を考慮した上で希望の物や馴染みの物を持ち込んでもらっている。持ち込みの少ない入居者へは、職員の手作りの飾りや近所の幼稚園児の手作りの飾りなどを用いて、居室に温かみを感じられる工夫ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、いたる所に手摺が設置されており移動や移乗等が安全に、自立できるように工夫設計されている。また、歩行器や、車イスでも安全に移動出来る様にスペースの確保も行っている。		